

新年のごあいさつ

三重県電気工事業工業組合理事長 角谷利夫
三重県電気工事協働会会長



会員の皆さんには
ご家族ともご健勝にて
迎春 心からお祝い申し
あげます。

さて、屠蘇気嫌も醒めか
けますと自然に頭に浮んで
くるのは何んといつても新
しい年の景気です。
世は将にニューメディア
の時代を迎え、各野の先端
技術の研究、開発は実に隔
世の極みであります。
その中でも驚異的に付加
価値を高めつつある電気通
信技術は、これに相乗する
コンピュータ等に依り多種
多様の需要と供給が急速に
増大し、遂いには各種の産
業構造を革新し国の経済基
盤をも覆す勢いです。これ



三重県電気工事業工業組合
三重県電気工事協働会
発行人 角谷利夫
編集責任 広報委員

に加え、昨年の後半からの
急速な円の高騰は新たな経
済摩擦の要因を作るばかり
か業種によっては企業の盛
衰はもとより、その企業の
興亡すら左右する極めて不
透明な様相を呈しつつあり
ます。

こうした大きな波動の中
で公共投資に依る官民需要
の増大に期待をかけてもこ
れまた国の財政逼迫から寧
ろ下降線を辿り心寒とした
昨今であります。

更に、我々業界の最大の
関心事であります住宅の建
築戸数も漸く一二〇万戸ま
では回復してまいりました
が、とても業界にとつて満
足な数字とはいえません。

然しながら消費者の趣好が
量より質を求め数の不足を
補うことはそれなりに評価
すべきで、他方、電気通信
技術の高度化と、事業の民
間開放の効果は急激に需要

が増し、毎日に新しい市場
を造り出して行きます。そ
して我々の身近な工場や商
店から一般家庭にまでこの
需要が要求される日を迎え
つつあります。となりませ
と、それにはこうした需要
の変化に対応する勉強はも
とより、この需要に伴う高
度な電気設備の供給に責任
が課せられることになり、
その責任を果すことは執り
も直さず仕事の増加に繋が
ることになるのではないで
しょうか。

石油危機以来、我々は技
術営業の拡大を唱え、企業
努力に励んでまいりました。
設備を売るのでではなく
技術を売ろうと、家庭用設
備にも電源、照明、空調、
防犯、防災、通信の併設と
合理化はもとより、更にこ
れらの設備に付加価値を高
めるにはその機能を自由に
操作、制御、管理するシス
テムが時代に即応する設備
です。

昨年、一昨年に亘り皆さ
んと勉強してきたHA配線
はこの初歩的なものです。
今年からは更に多種多様
な情報の需要と供給が増幅
しますと、これの管理と提

供に必要なコンピュータ
等の研究開発に拍車がかか
ることでしょう。
このように停るところを
知らない科学や技術を生み
出すものは一体何んなので
しょう。

それは誰もが、より豊か
に、より楽しく暮らしたい
と希う、限らない欲望であ
り、その欲望をなんとか満
したいと、とてつもない夢
を描きます。その夢が遂に
は現実の姿を創り出してい
くのではないのでしょうか。
：と考えますと、今日の社
会現象は、初め一点の発想
から始まり、発想の実現が
更に次の発想の転換を計り
社会の進歩を生む訳です。

ところが現実の我々の周
圍には、いろいろの条件が
存在して、その進路を阻み
ますし、また阻まれました
が、こうして皆さんと一緒
に新しい年を迎えました。

今年も組合員全員が、お
互いに個々に持つ素晴らし
い英智と、こよない友愛の
情を惜しみなく出し合い、
助け合って、自からの経営
を繁栄に導き、組合の充実
を計ろうではありません
か。

中部電力株式会社

取締役津支店長

太田 四郎



新年明けましておめでとうございます。

皆さま方にはお元気に新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

また、旧年中は当社の事業運営につきまして、格別のご支援とご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

顧りみますと、昨年は電気工事協力会連合会総会がこの三重県の鳥羽の地で盛大に開催された年でもありました。私も当時、長野県電気工事協力会の顧問として出席させていただきましたが、運営にあたられました皆さま方のご尽力に大変感服をいたしましたことは、まだ記憶に新しいところであります。

また、昨年十一月に開催されました「第十九回引込

および内線工事技能オリ

ビック中部地区大会」にお

きましては、代表の亀山チ

ームが見事総合二位に入賞

するといふ榮譽に輝かれま

した。これもひとえに日頃

の皆さま方の技術の練磨と

公共保安・お客さまサービ

スにかけ熱意のあらわれ

と改めて敬服いたしましたこ

ろでございます。

力発電所の3号機増設が地元の皆さま方のご理解のもとに昨年一月着工いたしました。

北勢方面においては、四日市火力4号系列増設、四日市LNG基地、川越火力

1・2号機新設工事が順調に進められ、活気ある槌音が工事現場で聞かれるなど

一步一步着実な進展がみられました。

また、昨年六月、県知事、県議会議長への芦浜原子力発電所建設計画へのご

協力要請を行わせていただきましたが、県議会での調査推進決議を頂くなど芦浜

立地への新たな動きがみられた年となりました。

本年は具体的な進展が得られるよう全従業員が一丸となつて取り組んでまいり所存であります。

この新たな動きのなかで、協力会の皆さま方には、芦浜立地を推進すべく

多大のご支援を賜わり深く感謝する次第であります。

さて、新しい年六十一年を迎えて今年一年を展望い

たしますと、日本経済は昨年の七月をピークに安定期からゆるやかな調整期にさしかかり、円高と相まって輸出や設備投資が減少し、成長率は若干鈍化すること

が予測され、電力需要の伸びも決して楽観を許せない状況にあります。

そして、当社の今年の課題でございますが、既に高承のとおり、当社の電源

構成は石油への依存度が高く、不安定な石油需給、石油価格、為替レートなど外

部要因に左右されやすい企業体質にあります。

この体質を改善し、電力の安定供給を果すために

は、何にも増して電源の多様化をめざした開発をすす

め、不透明なエネルギー事情への対応と、より経済的な電源への移行を推進する

必要があります。

この課題を克服するため特に「芦浜立地」につきましては、従来にも増して

ご支援とご協力を賜わりますようお願いいたします。次に需要面からは、一昨

年来、負荷平準化策として深夜電気温水器の普及拡大に取り組んでまいりましたが、残念ながら契約口数は依然として減少傾向にあります。もとより深夜電気温水器をはじめとした深夜負荷の造成は、供給設備の利用率を高め、コスト抑制による電気料金の長期安定のためにも極めて重要な課題となつております。

当社は昨年、電温普及会を設け皆さま方にも多大なご協力をいただくことも

なりました。全従業員をあげて温水器需要の造成をは

かる所存でありますので、本年もよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

三重県電気工事協力会におかれましては、本年、輝やかしい創立四十周年を迎えられますが、これを契機と

した皆さま方の、ますますのご発展と、あわせて、ご家族ともどもの安全ならび

にご健康を祈念いたしまして新年のごあいさつといたします。

保守技術員

一人一人が契約を!!

六三名が新規認定となる

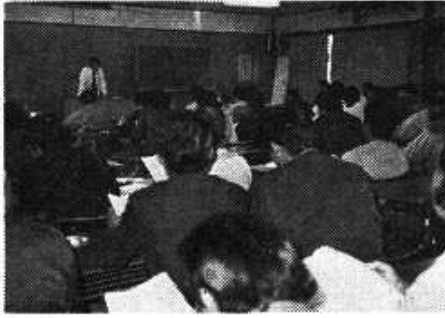
共同保守管理業務の契約推進については現在全日大においても契約増加コンクールが実施中である。各地区でも積極的な活動をされていると思うが、営業分野拡大に大きなメリットのあ

る本業務については保守技術員資格の認定が必要であり、かねてから各地区における新規認定受講希望者がま

とまり、去る十一月八日、津電気会館において名古屋通商産業局担当官を迎えての認定講習が開催され、当日出席した六三名が認定登録された。

当日は保守管理業務の手引きを中心に取扱内容、手続きの勉強とともに、通産局担当官から保守管理のポイント、各地域での実例など重要な項目についての技術員としての認識向上と責任ある点検の必要性が強調された。

一方当三重県は今回で保守技術員の認定者が七〇〇名を上回っているが契約実績については一〇〇件程度となっている。折角全国組合員の要望により改正実施された共同保守管理業務であり大きな営業拡大のこの業務について、有資格者である保守技術員一人一人が少なくとも一件は契約され、保安確保の重要な業務実績をあげられたい……と強い要請があった。



認定講習会

なお需要家に対するPR資料についても増刷し、各地区事務局に備付けてあるので、全保守技術員の皆さん、積極的な活用と契約増加運動への参加をぜひお願いします。

理事会・委員会などのうごき

- ◎60・10・7 (月) 厚生委員会 (6名出席)
- ◎雇用改善事業の推進
- ◎共済会事業について
- ◎その他厚生事業について
- ◎60・10・11 (金) 記念式実行委員会 (6名出席)
- ◎記念式典実施要領について
- ◎表彰関係取扱いについて
- ◎式典予算案について
- ◎60・10・16 (水) 臨時理事会 (22名出席)
- ◎加入承認について
- ◎関係団体加入について
- ◎「共保」認定講習会について
- ◎記念式典実施要領について
- ◎共済会掛金集約について
- ◎60・10・28 (月) 記念誌編集委員会 (6名出席)
- ◎編集方針、内容について
- ◎取材・資料収集について
- ◎編集作業日程について

- ◎60・11・15 (金) 理事会 (20名出席)
- ◎事業報告
- ◎加入・退会・変更承認
- ◎新年役員会日程について
- ◎各委員会関係
- ◎その他連絡事項
- ◎60・11・30 (土) 事務局打合せ (18名出席)

- ◎最近の事業報告
- ◎記念式典事業関係について
- ◎登録更新事務について
- ◎組合税務について
- ◎その他連絡事項
- ◎60・12・14 (土) 総務小委員会 (4名出席)
- ◎最近の事業報告
- ◎年末、年始対策について
- ◎新年役員会について
- ◎記念式典事業の準備について
- ◎組織の見直し検討
- ◎年度末事業の推進について

年頭所感

(社)東海電友共済会理事長 池戸正己
年頭にあたりご挨拶申しあげます。
「気づばり」という言葉がありますが、簡単な事の様ですが、これ程難かしい事はないと思えます。

気が付かなければ気のくばり様もない訳です。例えば貴方の街のメイנסトリートを想い浮かべて下さい、デパートのどちらかへの信号機までに
どんな店が並んでいるか
正確に言えますか。
私どもの職場環境には色々なトラブルが並んでいる訳ですが、これに気が付かないではどう仕様もありません。自分の店は自分で護らなければ誰が助けてくれるでしょう。か。転ばぬ先の杖、これが共済です。
ご多幸をお祈り申し上げます。

60年度の技術(委)

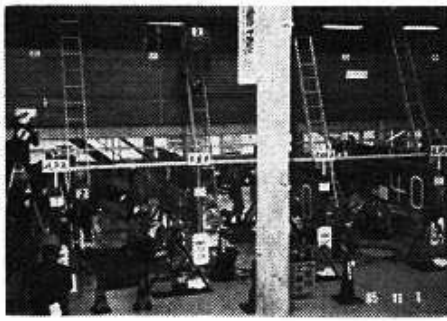
事業をふりかえって

技術委員長 上村 静 男

新年あけましてお目出とうございます。会員の皆様はじめご家族、従業員の方々ともに輝かしい新春をお迎えのことと存じます。

昨年は技術委員会の事業計画に対し、各支部、地区の役員はじめ会員の皆様には絶大なご協力を賜わりありがとうございました。今年も昨年同様、よろしくお願いたします。

さて昨年一カ年の主な技術委員会事業は「設計コン



中部連合会技能
オリンピック大会

クール大会」、「技能オリンピック大会」、「HA新技術講習会」、等を計画し、二月にはすでに報告のとおり初めての設計コンクール大会を実施し、多大の成果をあげることができました。

十月十六日には技能オリンピック大会を開催、当日は好天に恵まれ、角谷大会長、太田中電津支店長のあいさつのおと優勝旗返還、つづいて四日市チーム代表の片岡勇選手による力強い宣誓のあと、各地区から選ばれた十チームにより一斉に実技競技に入る。各地区でのそれぞれ特訓された技能をテキパキと発揮、日常業務の延長とはいえ、競技ともなると一段と真剣さが加わり、安全呼称の大きな声が交差する中で次々課題による配線ができてくる、作業終了チーム

から順次接遇面接会場へ進み、十二時三十分、実技競技を終了、昼食後再び学科競技に入り三十問に対する挑戦、やがて全競技を終了、総合審査のうえ十五時三十分より表彰式に入る。小沼審査委員長の講評と結果発表がありつぎのとおり決定。

優勝 亀山チーム
準優勝 津・久居チーム
三位 員弁チーム
入賞チームならびに努力賞が大会長からそれぞれ授与され、日頃の練習をいかななく発揮された参加選手一同に全員暖かい拍手をおくった。

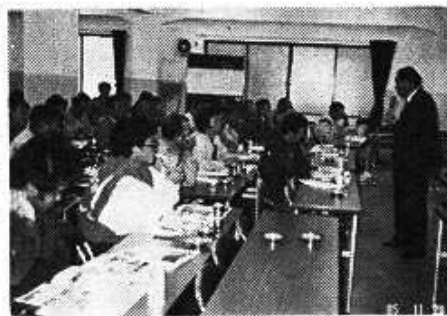
また十一月一日には中部連合会大会が愛知県日進町の中電社員研修所において盛大に開催され三重県からは前記上位二チームが出場、中部各県から十二チームが勢揃いする中で堂々と活躍、亀山チームが総合で準優勝に入賞するとともに、安全賞では第二位、学科賞(個人)では亀山チームの若林始選手が第三位、

同坂隆選手が第四位入賞とスバライイ活躍をされました。なお津・久居チームの各選手は残念ながら入賞こそできませんでしたが最後まで一生懸命頑張られた活躍に応援者一同拍手を贈り称えました。ちなみに中部大会総合成績はつぎのとおり。

優勝 長野県Aチーム
準優勝 三重県Aチーム
〃 愛知県東部Aチーム
三位 静岡県Aチーム
〃 名古屋Aチーム
〃 長野県Bチーム
三重県大会、中部大会に出場された選手始め各地区

での諸準備にご努力された皆さん本当にご苦労さまでした。つぎに「HA新技術講習会」については最近の新らしい施工技術であるHA配線を中心とした内容で、北口先生始め、松下電器産業(株)の関係者の熱心な指導により計画どおりつぎの会場で実施。

11月19日 上野会場 (64名)
11月20日 四日市会場 (61名)
11月21日 松阪会場 (45名)



北口講師によるHA講習会

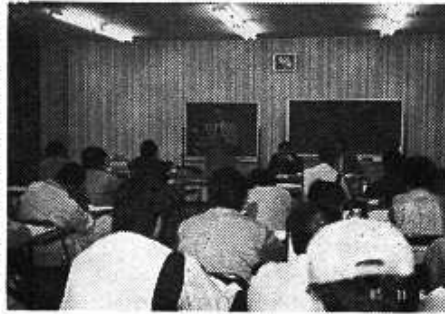
各会場とも終日にわたり、理論から施工面にいたる詳細な指導がありこれらの電気工事施工の主流となるであろう新技術習得に各会場とも熱心な参加者で、有意義な講習を終了した。

このように技術革新の時代に、お互いの練磨・研修に今後も一人でも多くの参加を希望いたしますと共に、ご協力いただきました関係者の皆さんに紙上をかりて厚く御礼申し上げます。

「61年4月から改正される

年金法について勉強」

国民一人々々が加入している国民年金と厚生年金についての年金法が改正され六一年四月から大きく変わるということは誰しも承知しているが、具体的なところがどのように変わり、それがどのように影響するのかわかると、さっぱりわからないうというのが実情のようです。



入沢講師による年金法研修

(尾鷲会場)

そこで組合では、中部電気工事業厚生年金基金の入沢常務理事を講師に招き十

月十八日四日市会場、十月二十二日津会場、十一月六日尾鷲会場それぞれ説明研修会を実施致しました。

年金制度は老後における唯一の収入源となるものであり、このため若いうちから大切に掛金をすることの重要さから、年金と保険の相違、過去の制度運用取扱いの内容まで、わかりやすく、ユーモアをまじえて説明があり、そのシステムと大きな利点について認識を新たにしましたものであります。

今回の改正点の主なものは国民共通の基礎年金制度が出来たこと、また65才以上の方は年金制度に加入する必要がなくなるなど大きな改正があります。さらに現在厚生年金加入者の妻である方の取扱も大きく変わり、これまで妻は国民年金に任意加入していたものが四月以降は厚生年金の

方で一括加入となるので、掛金を納付しなくともよくなりました。その手続きが現在各市町村役場で受付されております。

65才以上でなお活躍されている方についても4月以降掛金納付が不用となる訳です。

また適用事業所の範囲も改正され、法人で五人未満事業所はこれまで任意加入であったものが義務加入(厚生年金)となるなどシステムがいろいろ変更となります。なお厚生年金についてははわれわれ業界で組織している中部電気工事業厚生年金基金の内容(国の厚生年金支給額に基金独自の積立利益分の上積支給の制度など)についても詳細な説明があり、基金事務局としては今後年金法の改正により、それぞれ変更加入手続きについて、いつでも相談に応じ、お世話下さるのことであり、事業所繁栄のためにも大いに活用されますようおすすめいたします。

交通安全ニュース

安全対策については各地区安全推進会議を中心に、ご尽力いただいで居ますが、最近の交通事故は依然として増勢が続いておる中で、各団体業種の集りで「三重県若年運転者交通事故防止協議会」を結成、当組合も参画しておりますが当局のご指導を随時得ております。

最近のニュースとしては十二月九日現在県下での交通死亡事故一八六件(一九八人)を数え、このまま推移すると昨年を上回るという厳しい状況にあり、年末年始は交通がふくそうし気ぜわしさも加わる他、飲酒の機会も多くなることなどから事故の多発が予想されるので一層の注意と指導徹底が必要とされています。

なお現在の交通死亡事故のうち若年者(十六才〜二十四才)による事故は全件数の三一・八%、死亡人員については三二・四%と若年者に集中している感があります。さ

- 飲酒運転による事故 (二五%)
- スピードの出しすぎによる自損事故
- 二輪、原付による交差点の出合頭事故
- 凍結によるスリップ事故となっており、各事業主の方々ともども十分に注意を喚起されるようお願いいたします。
- ◎ 「61年度交通安全スロীগアン」
- シートベルト
- 車社会の身だしなみ
- 「気をつけて」
- 朝のひと忘れずに
- とび出しは
- めいわくいっぱい
- 事故いっぱい

〈特集〉

60年度経営セミナー分科会報告!!

前号(36号)でお知らせした中部電気工事業組合連合会の経営セミナー各分科会討議内容はつぎのとおり。

◎第一分科会

「転機に立つ電気工事業界の対応について」

座長 愛知県

加藤副理事長

1、過当競争の防止と適正価格の確立について

電気工事業界では建設関連業種として長期にわたり不況業種の指定をうけ、本年三月解除になったものもまだまだ厳しい経済状況の中におかれている。

(1) 組合員企業の現況

各組合でそれぞれ調査されているところであるが、資本金、従業員構成、年間工事高、受注状況など、すべてにおいて極めて零細な企業集団である。

(2) 不当価格の防止

各県でも明らかなどおり、不当価格の第一の要因

は、建設業者(ゼネコン)のダンピング受注の結果の下請へのシワよせであること。現在では多くの場合、出血価格で、むりやり下請させられることが多く、限界を超えている。

適正価格による受注は、極めて困難であるが、毅然たる態度で発注者と交渉することが大切である。またいまこそ工業組合組織の有

効適切な活用(調整事業等の見直し)を考えることが必要である。

不当価格の第二の要因は、大手電設業者の小工事分野への進出と、価格の切り下げである。

このことについてはすでに、中小零細業者の保護を目的とする「中小企業の事業活動の確保のための大事業者の事業活動の調整に関する法律」が制定されておき、これの実効をあげる運動を強力に行う事が必要である。

第一分科会



2、適正価格維持のため発注者に対して積算基準を明確にする価格の決定。
価格問題については何とかしなければならぬ、これが組合員企業の共通した深刻な問題である。

「価格研究委員 愛知工組では」
3、分離発注の促進
建築設備の分離発注についてはすでに昭和46年の建設法の改正時の決議各種通達、さらに昭和48年10月の中央建設業審議会結果においても「管工事、電気配線工事等の設備工事については現在のところ相当規模のものについては発注者において分離して入札に附することが適当である」とされ、同日次官通達が発せられ、各関係機関に徹底するよう通達されている。現在では中央官庁においてはほぼ分離発注されているが地方においては徹底されていない状況で、これらについて強力に推進しなければならぬ。

らない。

◎第二分科会

「技術営業の拡大をどう進めるか」

座長 静岡県

斉木副理事長

今年も同じテーマが何故出されたか……先づこれを考えるとき、相も変らずゼネコンの下で叩かれ放題の業(わざ)を営み、なかには木造建築等に於ては建前時に無報酬での手伝いとか、これに協力しないと工事がもらえないとか……そして万一の事故は法的に工事施工業者が負われる運命にあり全く踏んだり蹴ったりである……わかって居てもこれが毎日の生活となり容易に脱皮できないのが現況ではないだろうか。
私達の周囲の環境の変化は、日進月歩、止まることを知らない現在、これに追隨できているや否や……電話工事に於て……省エネパットの販売……そしてホームオートメイション(HA)の活用等について考えて見る時、時代の先取りど

ころか他業者に先行されているのが実態であるといつても過言ではないと思う。そこで今回は各県の対策など報告をうけながら今後如何にすべきかを検討した。

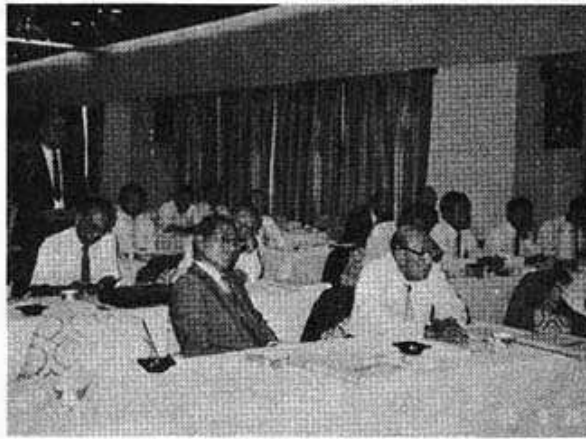
△電話工事▽

(1) 現状は各県それぞれ、各メーカー等による講習会

いない店では容易ではない、これらを勘案して今後組合内部で講習会、指導ができるよう専従職の配置等を考えてはどうかとの意見があった。

△H・A工事▽

中部管内ではこれまで三重県のみが実施中で、松下電器の応援を得て、北口



第二分科会

講師の指導による、「H・A配線設計コンクール」もすでに実施引き続き本年度も講習会が実施されている。

△まとめ▽

総合的に討議の中心は電話工事に片寄った感があったが、いづれにせよ指導講習はすべてメーカー依存であり、組合員はある程度、「アナログとは……H・Aとは……」理解しつつあるもののまだまだそれが用途、活用に対する理解に欠けているといつても過言ではない

に参加され資格取得に挑戦しているが、受講人員の制約、受講日程割などにより、組合員全体までには及んでいない、一方試験が難しいためと若い従業員の

い。いつまでも日当稼ぎの業種であつてはならず、一日も早く技術営業の拡大を計り、時代の先取りに取り組んでいただきたい、また各事業主は時代の認識を深め、常に勉強と積極的な努力をもつて、非常事態に對処すべきであり、各組織間においては常に情報交換等により互に研さんに努めるとともに組織強化を計らなくてはならない。この意味において全日電工連に対しても、常に情報の早期収集と的確な業務指導を要望いたしたい。

◎第三分科会

「電気工事業界の展望と青年部の役割り」

座長 岐阜県 大熊副理事長

業界の未来を信頼し、希望をもつて組織された青年部について本セミナーでは、去る56年度から毎年真剣に討議され育成を図って参りました。この5年間に誕生し育成され、位置付けされ、各役割りを立派に果たす段階に成長していると思

います。以下各県の現状が報告された。

△岐阜県▽

業界を取りまく環境は一段と厳しく、これ等に対し

岐阜工組としては自力による開拓を目ざして「活路開拓事業」を行い、各項目についても短期・中期活動部門に分別し現在も継続して具体化指導に努力している。しかし現実には組合員への浸透が鈍く、意識不足によつて道なお遠しの感を免れない。そこで青年部の役割としてつぎのとおり考え行動している。

元來組合とは弱い者が集つて少しでも強い立場に立つとす意志をもつて設立するものである。まして80%以上が零細企業であるこの業界ではなおおさらのことである。しかし県工組の調査によると組合への期待は薄いとある。これは組合に對して自ら参加して活動することのない他力本願的意識が根底にあると考える。ここで青年部は数年前設立され、本音で討論ができ、

また将来の成果を一層強く期待し青年部自身の組合意識をもち、その意識は高く、数年後には飛躍したも

のになると思う。青年部は県工組と同一歩調をとり、組合意識の高揚と事業のPR浸透、そして参加意欲の推進、併せて「組合おこし」の担い手の役割りを果たすべく努力している。しかし青年部は自身の意識において活動し運営しているの、親組合になり、また干渉されない独自の各種事業を企画実行し、社会的地位、経済的立場の向上を図っている。

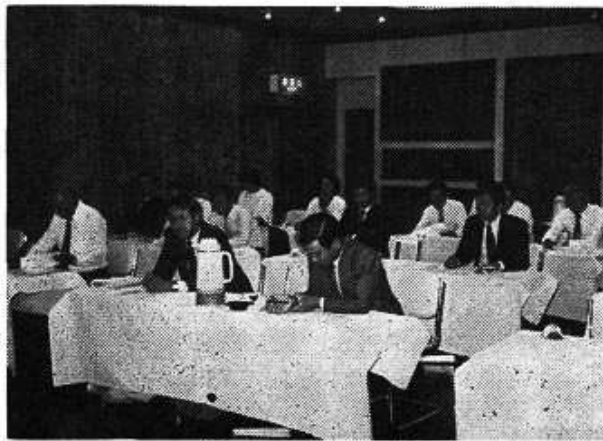
△愛知県▽

名古屋支部においては54年より活動しているが現在では一宮、岡崎支部でも設立され会員も倍増となっている。特に親睦と勉強会を行ない工組役員などを囲んでの現状の把握と分析を行ない将来の企画と運営について若い知識を導入し役立たせるよう推進している。

△三重県▽

県一本化の組織であるためか集約的な事業は少なくなるが地域での青年部の育成活動が主体となり親睦、顔合せ的な事業・勉強会など運営に努力している。先程の岐阜県の内容は大変組織的計画的であり大いに参考とし前進させたいと思う。なお各地域青年部では徐々に工組とのタイアップによる事業の推進役を果しつつあり、今後この方向で推進されると思う。

△静岡県▽
静岡支部では60年6月、



三分科会

あるが、青年部の存在とその価値、それに今後の方向性を示唆した傾聴に値する多くの意見があり、各県においても青年部に対する関心と協力を頂き立派な青年部が育成されるよう一層のご努力を賜りたい。
なお各県設立

40人で設立発会した。発足したばかりのためか工組と協同組合の立場をどのように分別するかとの意見がある。

(この点について討論の結果、強いて明確にする必要はなく双方に属する立場でよいのではないか)

△長野県▽
長野県は地域広範なため、現在設立に至っていないが設立の意志統一まで進んでいる状況で設立準備に努めている。

後には青年会部の中部連合会結成の早期実現の要望が

青年部会の見学研修旅行実施

表明された。

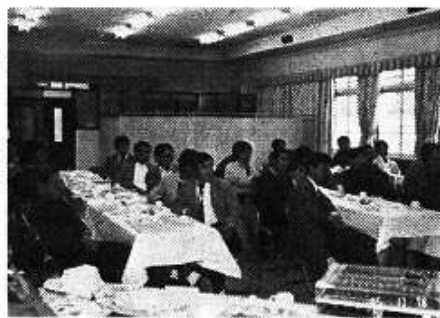
以上

去る十一月十七日・十八日両日にわたり青年部会の見学研修旅行を実施、各地区から二十八名の参加で昨年に引き続き会員の親睦を兼ねての行事で、本年は各事業所の仕事のことも考へ、日曜日からの出発となり、第一日は各地区会員の親睦を主として京都嵐山方面を周遊、一泊した。

秋の紅葉季節の日曜日とあって嵐山方面への交通は、大渋滞、京都南インターから嵐山まで車の連続、遅々として進まない。反面車中での話題が十分はずみ、思わぬ会員同志の親密度が深まり旅館での懇親会は一層の盛りあがりを見せ、各地区での仕事の内容、業界情報の交換など青年らしく活発で明るい情景……翌日は大阪の松下電器ニューメディアセンター見学とあって七時三十分出発、昨日からのなごやかな一団と

なって会場に到着。六十年七月開所されたばかりのセンターとあって目を見張るような設備が展示されている。

ニューメディアはさまざまな方向性をもって発展し



松下電池工業での研修

ており、特に21世紀に向けての情報社会に適応したシステム機器がズラリと展示され稼働している。

電話・テレビ・コンピュータを使って必要な情報をいつでも取り出せるキャブテンシステム、音声や映像

を光ファイバーケーブル回線や電話回線で送りあつての電子会議システム、ビデオ監視システム、H・Aシステムなど、夢のような設備が完備され実演されている。これからの電気利用の広さを一目で確認できる内容に参加者一同感嘆するとともに技術革新の現実を直視し、今後一層の勉強と研修の必要性を痛感した。

つぎに松下電池工業を見学、工場建物は相当古いが一步工場内に入ると隅々まで整備された最新技術を駆使したオートメ工場に驚く、また製品の多様さ、製品管理に徹底した手法を用い、現在では電池については一分間一五〇〇個までの生産能力を誇っている。見学後電池利用による電気工事用の各種計測器についての説明、デジタル絶縁抵抗計、自動絶縁抵抗計、同接地抵抗計など最新製品の特性などについて解説があり、業界における現実の技術進歩を目的のあたりに見学研修有意義な旅行を終えた。

四日市支部 高山悦嘉

会員の皆さん明けまして
お目出とうございます。ど
なた様も敵しかつた業界の
不況の夢から覚めて、今年
こそはと大いなる意気込み
で奮闘されることとござ
いましょう。

私は新年を迎えての雑感
の中で強く印象に残った思
い出の中から次の出来事を
披露させて頂きます。昨年
十月も末頃で四日市地区の
電友会で催した隔年一回の
慰安旅行で駿河の焼津方面
で遊んだ時のことでありま
す。

それ程町から深くもない
山の龍潭寺を参って帰り途
に土産店の陳列品の中から
パッと眼に入って心を引か
れた木彫り像を求めたので
すが、これが白隠禅師像で
あったわけです。それ程大
きからず小さからずで家の
片隅に置いて、時折ひょっ
とのぞく感じで見ますと、
「お前しっかりせんかい」
と睨みつけられる想いがす
るのであります。

ある日この像を知った姉
が白隠さん生誕三百年の記
念記事を私に見せてくれま
した。記事によりますと貞
享二年、一六八五年に現在
の静岡県沼津市原の古い旅
宿に生まれた白隠は、後年
その名声が全国に響きわた
って四方から多くの修行者
が参り、その中から優れた
禅者が生まれたそうです。

今日、わが国の臨濟禅は、
すべて白隠の法系を受け継
ぎしかも白隠禅を学んだ者
は、出家者にとどまらない
という事です。八十四年
の生涯の間に多くの大名、
武士、農民、商人を教化し
た。それ故、白隠は日本臨
濟禅中興の祖といわれ、仰
がれているようでありま
す。

ある時、近江の武士、織
田信茂なる者が江戸へ行く
途中、市原の松蔭寺に白隠
を訪ねて、「仏の教えに地
獄、極楽と申しますが、そ
れは一体どこにあるのでし
ょうか」と問いかけた。す

ると、白隠は笑って答え
た。「あんた武士だろう
が。何を迷って地獄、極楽
と騒いでおる。そんなこと
を尋ねるからには、きつと
腰ぬけ侍に違いなからう」
と。さすがに信茂も怒って
「無礼者！」「おお、切れる
か、腰ぬけ侍！」「なに？
もはや勘忍ならぬ」信茂は
刀を抜き、白隠めがけで切
りつけた。白隠は本堂へ逃
げて行く。信茂は逃げる白
隠を追いつめ、まさに一刀
両断のせつな、「それッそ
こが地獄だ！」と大喝され
て、ハッと気がついた。刀
を収め、ベタリと座りこん
で深く頭を下げ、「ありが
とうございました。解りま
した」と言うと、白隠はニ
ヤリとして言った。「そ
れ、そこが極楽じゃ」

以上が記念記事の抜萃で
ありますが、九百三十有餘
の事業所という大世帯の我
々組合員が同じ様な仕事を
つづける中で、少しでも質
の向上を計って経営基盤を
高めて行くのに日夜苦勞を
重ねて居るわけです。

中でも組合の進路を脱線
させずに円滑にカジとりし
て行く役員之苦勞も大きい
ものがあります。執行部の
英智と結束が益々求められ
る所以でもあります。組合

員お互いが足らざるところ
を補い合う相互扶助の精神
で、今年も頑張りましたよ
う。
白隠禅師に合掌してペン
をおきます。

△四日市▽

「恒例の電気関係者親睦ソフトボール大会」

去る十一月九日、四日市市営北条グラウンドにお
いて恒例の四日市地区電
気関係者第九回親睦ソフ
トボール大会が開かれ
た。

好天に恵まれた大会に
は一〇〇余名の関係者が



勢揃いした各チーム

- 参加、トーナメントによ
り一試合五回戦、さらに
時間制限を設けての熱戦
が繰り広げられたが、好
プレー、珍プレーの連続
で結果はつぎのとおりで
あった。
- 優勝 東海電気工事
準優勝 電気工事協力会
- 三位 電気保安協会
- 四位 中電四日市(営)

なお当日はスポーツを
通じての電気関係者の親
睦を深めるのが大きな主
旨であるため個人賞とし
てもつぎのような和気あ
いあい大会であった。

- ・ホームラン賞
- ・打撃賞
- ・ファインプレー賞
- ・ハッスル賞
- ・パンザイ賞
- ・ニューモア賞
- ・敢闘賞
- ・最優秀賞

会員異動のお知らせ

60年9月以降の会員異動は下記のとおりです。名簿の追記修正をお願いします。(事務局)

| 地区 | 種別 | 新旧 | コードNo. | 事業所名 | 代表者 | 住所 | 電話番号 | 郵便番号 | 登録届出申請番号 |
|-----|------|----|--------|------------|-------|-------------------------------|--------------|--------|-------------|
| 四日市 | 新加入 | | 34172 | (株)興伸電気工事 | 山城長多 | 四日市市智積49-5 | 0593 26-5217 | 510-12 | (届出) 83-8 |
| 亀山 | 〃 | | 34940 | 小林電気 | 小林正良 | 亀山市安坂山町2094 | 05958 5-0913 | 519-02 | 59-34 |
| 津 | 〃 | | 31122 | ハマミ電工 | 小谷口早三 | 津市高茶屋小森1709-284 | 0592 34-7673 | 514 | 60-90 |
| 津 | 退会 | | 31010 | 津電気商会 | 清水武 | 津市大字半田2226-105 | 0592 26-3706 | 514 | (届出) 470008 |
| 大台 | 〃 | | 32322 | 中谷電気商会 | 中谷隆司 | 多気郡大台町栗生653 | 05988 3-2403 | 519-23 | (届出) 84-2 |
| 〃 | 〃 | | 32333 | 中村電設 | 中村典夫 | 度会郡大宮町滝原1329-2 | 〃 6-3001 | 519-29 | 57-96 |
| 尾鷲 | 〃 | | 32431 | 東電気工事店 | 東豊次 | 北牟婁郡紀伊長島町松本854-23 | 05974 7-2871 | 519-32 | 56-434 |
| 四日市 | 〃 | | 34006 | (株)中央電気工業所 | 伊藤栄一 | 四日市市元町1-6 | 0593 52-2743 | 510 | 56-103 |
| 四日市 | 住所変更 | 新旧 | 34163 | 錦三和電工 | 内山孝 | 四日市市中里町28-2 四日市市御園町1丁目76-2 | 0593 45-3461 | 510 | (届出) 51-1 |
| 鈴鹿 | 〃 | 新旧 | 34717 | 西川電気工事店 | 西川武成 | 鈴鹿市南堀江1丁目8-30 鈴鹿市南堀江町31 | 〃 85-0007 | 513 | 〃 56-144 |

昭和60年度

電気工事士試験実施結果

| 試験地 | 内訳 | | | 合格率 (%) |
|-----|-----|--------|-------|---------|
| | 試験別 | 受験者数 | 合格者数 | |
| 名古屋 | 筆記 | 4,784 | 2,487 | 52.0 |
| | 技能 | 3,451 | 1,192 | 34.5 |
| | 総合 | 6,233 | 1,192 | 19.1 |
| 静岡 | 筆記 | 2,117 | 1,106 | 52.2 |
| | 技能 | 1,736 | 741 | 42.7 |
| | 総合 | 2,977 | 741 | 24.9 |
| 津 | 筆記 | 897 | 445 | 49.6 |
| | 技能 | 685 | 262 | 38.2 |
| | 総合 | 1,240 | 262 | 21.1 |
| 岐阜 | 筆記 | 1,140 | 801 | 70.3 |
| | 技能 | 916 | 392 | 42.8 |
| | 総合 | 1,353 | 392 | 29.0 |
| 長野 | 筆記 | 1,099 | 573 | 52.1 |
| | 技能 | 690 | 241 | 34.9 |
| | 総合 | 1,327 | 241 | 18.2 |
| 計 | 筆記 | 10,037 | 5,412 | 53.9 |
| | 技能 | 7,478 | 2,828 | 37.8 |
| | 総合 | 13,130 | 2,828 | 21.5 |

(注) 総合の受験者数は、受験申請者総数を計上した。

電気工事士試験について

61年度は3月20日から受付

①60年度試験結果
既報のとおり60年度からの改正に伴い全国統一方式で(財)電気技術者試験センターによる試験が終了した。筆記試験については五月二十六日、技能試験は九月八日に実施され、同センターから結果について受験者各人宛に十一月二十五日通知発送済みである。

各地区において熱心に受験勉強され努力の結果、組合関係では多数の合格者がでているが全体としては別表のとおり合格率が低調である。(別表2)

②61年度試験の実施予定
あった。(別表1)

受験希望者の多い電気関係の各種試験について、電気技術者センターではその便宜を図るため早くも61年度試験の実施予定がこのほど次のとおり発表された。

電気工事士については筆記・技能試験の期間が短縮され、高圧電気工事技術者試験が延長されたため、同一年度に両試験に挑戦が可能となるなど受験者にとって有利な内容となっている。

昭和61年度試験の実施予定

- ◎電気工事士試験
 - ・受験願書受付期間………昭和61年3月20日(木)～4月4日(金)
 - ・試験実施日………筆記試験 昭和61年5月25日(日)
 - 技能試験 昭和61年7月27日(日)
- ◎第三種電気主任技術者国家試験
 - ・受験願書受付期間………昭和61年5月6日(火)～20日(火)
 - ・試験実施日………昭和61年8月9日(土)～10日(日)
- ◎高圧電気工事技術者試験
 - ・受験願書受付期間………昭和61年10月21日(火)～31日(金)
 - ・試験実施日………昭和61年12月14日(日)

(注) 上記の「昭和61年度試験の実施予定」は、変更することがありますのでご承知下さい。

「鈴鹿地区だより」

三重'85先端技術博覧会の思い出

鈴鹿電気工事協同組合専務理事 出口 昭 義

60・3・30～4・2にわたり鈴鹿市体育館にて開催されることになった博覧会に、鈴鹿地区組合ではこれに必要な電源工事の臨時仮設電気設備一切を何んとか受注しようと鈴鹿商工会議所に何度も足を運び、地元業者の育成ということで見事に分離発注に成功、高圧変電設備四〇〇KW内外工事一式を請負うこととなり低圧配線は二〇〇スケ電線三回線一五〇スケ電線三回線、出店六十社のマス配線

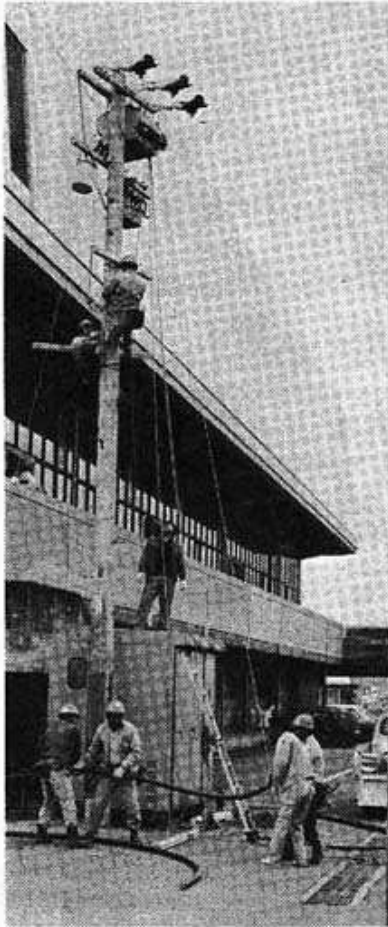
を組合員五十二名で施工；、この様な仕事は初めてでありながら、何回もやっているような仕事ぶりです。ムーズにつきつぎ完工、指定期日より一日早く完了という手際よさ、その陰には夜十時過ぎまで頑張った組合員の一致団結の賜でありました。

また会期中は三名づつ毎日会場に常駐、電気の保安確保に努め、トラブル一つなく無事大役を果し、終了後商工会議所会頭より金一

封と感謝状を頂き業界の面目を大いに発揮いたしました。

なおこの工事の利益金の一部でもって会館の一部改裝工事を実施、小会議室と炊事室の新增築工事を実施、小人数の会議、青年部会活動の場として大いに利用を図っております。

このように共同しての大きな力の発揮による共同意識の高揚には何にも優る事例としてまたとない機会でありました。他地区でもこのような事がありましたらお気軽に御問合せ下さい。参考になると思います。



組合員総出の取付工事

郷土に伝わる民話

事務局 大矢 善勇

「名所・旧跡を訪ねて」なドリレー記事が休稿されたので、新春にちなみ初日の出で有名な二見ヶ浦周辺に伝わる民話二題：その一

「二見ガエル」

二見浦の興玉神社……みなさんご存知の天下の名勝地として著名な夫婦岩のあるところ、その境内に石や陶器で作られた大きな「カエル」が、わんさとかまえています。このカエルのいわれについて

普通には昔参宮客が無事に家にカエルことがで

きるようにと祈ったのが二見ガエルの起源だ……と神社ではカエルのお守りを授与している……しかし

かしそういういわれはこじつけだ、昔は水の精は「カエル」だと思われた。

二見浦は雨ごいの聖地でもあったので、水神まつりカエルに祈りを捧げた、附近では雨ごいのとき、神聖な岩のうえにカエルを置いてたたきつづ

すという習慣があった。すると神がおこって雨を降らすという説もある。

その二 「蘇民伝説」

やはり二見浦の近く「松下」に伝わる話……「蘇民将来、子孫之門」と書いた木札が伊勢志摩地方の民家の戸口に年中掲げられているをよく見かける。これは昔、二見町

松下に「蘇民将来」と「巨丹将来」という兄弟が住み、兄の蘇民は貧しく、弟は金持ちだった。ある時みすばらしい姿の神が一夜の宿を乞うた、金持ちの巨丹は断わり、兄の蘇民は快くもてなし泊めた。神は非常に喜んで兄とその家族が、はやり病

等にかからぬように守ってやると約束、「蘇民将来、子孫之門」と書き与え、子孫は永く繁栄した。このいわれから伊勢志摩地方では蘇民将来の子孫だと名のる木札をかけて、病氣、魔除の風習が続いている。

National

電気工事用

計測器

総合カタログ '85

デジタル式
(D型)



ハンディタイプ
(UB型)



首かけタイプ
(TB型)



松下電器産業株式会社

中部電材機器営業所

郵便番号 461 名古屋市東区泉一丁目23番30号 電話 名古屋 (052)951-6281 (代表)